

重点取組分野	令和 7 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
①主体的な学び ②12年間の学習の一貫性	①児童生徒個々の実態に即したうえで、教科・領域等の授業において一人ひとりの経験や学びが連続する学習活動を展開するため、教育課程編成・年間指導計画について改善検討を続ける。 ②個別の教育支援計画・個別の指導計画をもとに、継続性のある学びを行う。	①教育課程委員会と学習指導部が連携し、「できることを生かす」という観点で、各教科の単元目標の見直しを行った。また、各クラスで放課後に授業の振り返りを行うことで、授業改善につなげることができた。 ②児童生徒の学習状況に基づき、個別の指導計画を作成することができた。また、これまでの学びを生かし、社会参加につながる指導・支援に努めることができた。	A
①交流 ②人権意識	①中村小学校や副学館校、近隣の小中学校との交流活動を通して、互いの児童生徒の良さを引き出し合い、尊重し合える関係づくりとなるよう「交流」及び「共同学習」の充実を図る。 ②人権を意識した教育活動を通して、児童生徒が「できた」「認められた」と感じられるように、児童生徒一人ひとりの自己肯定感を育む。	①中村小学校との交流を基盤として、小学部、中学部、高等部、分教室と学部ごとに交流先を決め、交流及び共同学習の充実を努めた。直接のふれあい活動を通して、お互いを尊重し合える関係作りを深めることができた。 ②人権教育全体構造図を改訂し、全ての教育活動を通じて人権意識の向上に取り組んだ。なかむらのかがや木運動では、児童生徒のがんばりや良さを共有することを通して、児童生徒の自己肯定感の育成に努めた。	A
①自立活動の充実 ②食育 ③保健	①6つの領域を個別の指導計画(自立活動)に取り入れ、質の高い指導・支援ができるように、特に「人間関係の形成」「環境の把握」「心理的安定」「健康の保持」の内容について、具体的な指導内容、支援の手立てについて検討を行う。 ②食に関する学習や給食指導を通して、食は生活を豊かにし、健やかに過ごすために大切であることを	①「人間関係の形成」について、具体的な指導内容および支援の手立てを検討し、個別の指導計画作成の参考となるように全職員に周知した。 ②食育学習など、児童生徒が見たり触れたりするなどして主体的にかかわれる活動を行った。また、安全な給食指導を行う環境整備の一環として食形態変更にかかわる手続きを整えた。 ③季節や児童生徒の実態に合わせて掲示物を工夫するなど、興味関心を持てるような取り組みを行った。また、生命の安全教育をとおして自分の体について考える機会をもち、	B
①地域連携 ②医療連携	①地域社会とつながるよう、地域行事等へ参加したり、授業への協力等を積極的に呼びかけたりする。学校運営協議会や自立支援協議会と連携し、そこでの意見や話題をより良い学校づくりにつなげていく。 ②教員、養護教諭、学校看護師、児童生徒の支援者や関係機関、主治医や臨床指導医、保護者等との協働により、安全な医療的ケアの実践に努める。	①レインボーエスタやYSGとの交流、事業所とのつながりなどは継続しつつ、新たにボランティアサークルとのつながりをもつことができた。学校運営協議会や自立支援協議会へは特支COが中心に参加し、学校の現状を伝えたり広報活動を行った。②関係機関と連携し、児童生徒の安全と学習保障の観点から様々な見直しを行った。また、臨床指導医による研修を行い、安全で円滑な実践に取り組んだ。	B
キャリア教育	・多様化する社会の理解を深め、主体的に卒業後に必要なことを考えられるように、保護者、教職員の研修会を充実させる。 ・(キャリア教育の視点を生かして、)個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成と評価を行い、キャリア発達を促すとともに、継続性、系統性のある指導に努める。	・保護者、教職員対象の施設見学会、研修、学習会、懇談会を開催し、子どもたちと取り巻く状況とキャリア教育の目標(理念)と観点(方向性)の重要性の理解を深めることができた。 ・個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成と評価においてキャリア教育の観点が、共通の視点として活用できることを確認することができた。	B
働き方改革	・教材研究の時間を確保し、児童生徒の参加につながる魅力ある授業を提供できるように、学校全体で業務の精選を行い、互いに高め合える職場づくりに努める。	会議設定の見直しを行い、教材研究や児童生徒理解が行える時間の確保に努めることができた。働き方や経験年次などで教員構成がより多様化していることから、より多くの教員が一層の授業改善・指導力や専門性向上できるように、引き続き業務の精選を進めるとともにさらに多くの時間確保ができる仕組みづくりの検討を進めていく。また、引き続き、働き方改革の推進のため「心理的安全性」と「ワークエンゲージメント」のある職場づくりに努めていく。	B
防災	・様々な状況を想定した訓練を実施し、積み重ねることによって課題を改善し防災意識を高め、安全で迅速な対応ができるようにする。	大規模地震、津波警報を伴う大規模地震、ライフラインの使用ができない状況での避難訓練など起こりうる状況を想定して訓練を実施した。訓練時に職員による非常食や非常物品の配布、災害時の各活動班の職員の動きの確認や、引き取り訓練実施に向けてのシミュレーションなど実践に即した訓練を行うことができた。	B
いじめへの対応 (大人の言動や環境整備から子どもたちが苦痛を感じないように)	・いじめ防止対策委員会にて各学部の情報交換・支援策やその経過確認、及び共有をし、児童生徒の小さな変化を見逃すことなく、安心安全な学校生活が送れるように取り組む。不適切な指導や不十分な環境整備等がなかったか、定期的に教職員一人ひとりが自身をふりかえる機会を設ける。	学校いじめ防止基本方針の改定を行い、組織的な情報共有体制を整えた。いじめ防止対策委員会では、各学部間で情報交換や支援策の確認を行い、児童の小さな変化も見逃さない体制を整え、安心安全な学校環境づくりに努めた。不適切な指導や環境整備などの不備がないか定期的に教職員が振り返る場を設けた。	A
学校関係者評価	○学校運営協議会の委員からは、中期学校経営方針に基づき、一年間の取り組みと結果におおむね肯定的な評価と今後のより良い学校づくりに向けて次のような助言をいただいた。 ・R8年度も学校評価の質問内容をより具体的に記載し、効果的な評価に繋げていく。 ・児童生徒の意思決定支援を充実し、一人ひとりの自立や社会参加を促していく。 ・引き続き、関係機関との連携など児童生徒の学校生活の充実に関わるよう情報交換・共有などを密にしたい。		
評価結果に対する学校の見解	○保護者や教職員の回答結果からは「十分達成」「おおむね達成」という肯定的な評価が3分の2以上であった。今年度の成果を継続したり本校の強みを高めたりする中で、課題であるとされた医療連携や自立活動の充実、働き方改革などは学校関係者評価を生かし、次のような改善を図っていく。 ・自立活動の「心理的安定」や「コミュニケーション」などで研究・研修に主体的に取り組んでいく。 ・心理的安全性のある職場づくりを通して、児童生徒の学校生活の充実を図っていく。 など		
中期取組目標振り返り	○R7年度の中期取組目標の振り返りからR8年度のより良い学校づくりに繋げるためには、次の3点に注力する。 ・目標の明確化：学部やクラス、分掌などのチームで目標達成に向けたロードマップを共有し、定期的に進捗状況を確認し、PDCAの振り返りから行動し、具体的取組を達成するチーム支援の充実 ・ミドルリーダーのより良いファシリテーション：事実や状況の把握、アセスメントから一人ひとりの教職員の強みを生かし、組織の中で協働できるようなマネジメントに関する知識やスキルの向上 ・心理的安全性とワークエンゲージメントある職場づくり：一人ひとりの教職員が風通しがよく、働きがいのある職場づくりに向けて、研修やワークショップなどから学び、望ましい言動を促進し、ウェルビーイングのある職場を醸成		

重点取組分野	令和 8 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
①主体的な学び ②12年間の学習の一貫性			
①交流 ②人権意識			
①自立活動の充実 ②食育 ③保健			
①地域連携 ②医療連携			
キャリア教育			
働き方改革			
防災			
いじめへの対応 (大人の言動や環境整備から子どもたちが苦痛を感じないように)			
学校関係者評価			
評価結果に対する学校の見解			
中期取組目標振り返り			

重点取組分野	令和 9 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
①主体的な学び ②12年間の学習の一貫性			
①交流 ②人権意識			
①自立活動の充実 ②食育 ③保健			
①地域連携 ②医療連携			
キャリア教育			
働き方改革			
防災			
いじめへの対応 (大人の言動や環境整備から子どもたちが苦痛を感じないように)			
学校関係者評価			
評価結果に対する学校の見解			
中期取組目標振り返り			